REFERENCES

&

MISCELLANOUS

The Kaidô Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2003.

Appendix: Japanese sources in reprint

I: Boroboro no sōshi. Quotation in KS 2:34 (p. 85). 111

II: Boroboro no sōshi. Quotation in Kurihara 1975:83 (p. 85). 111

III: Butsu-gon. Nakatsuka 1979:426-428 (p. 55). 111

IV: Fuke shūmon okitegaki (FSOG) branch sect register. KR 9:1134 (p. 76). 111

V: Genji monogatari: Kiritsubo chapter poem. OKJ 1981:1096 (p. 71). 111

VI: Ima monogatari. Quotation in KS 2:35 (p. 86). 111

VII: Isshi oshō komusō honsoku. Mori 1981 (1938), 3:77-78 (p. 11). 112

VIII: Kaidō honsoku. Nakatsuka 1937:28-29 (p. 11). 113

IX: Kaidō honsoku (Boro komusō honsoku). Mori 1981 (1938), 3:72-74 (p. 11). 114

X: Kaidō honsoku. Nakatsuka 1979:271-273 (p.11) 116

XI: Keichō kemmonshū. Quotation in KR 35:1026 (p. 104). 117

XII: Keichō kemmonshū. Quotation in Kurihara 1975:183-184 (p. 104). 117

XIII: Kyoreisan engi narabi ni sankyorei-fuben. Nakatsuka 1979: 133-135 (addenda). 118

XIV: Kyotaku denki. Nakatsuka 1979:123-125 (p. 6). 119

XV: Kyotaku denki kokujikai branch sect register. Kurihara 1975:124 (addenda). 120

XVI: Linchi lu, chapter 29. Kurihara 1975:116 (p. 30). 120
Nakatsuka 1979 (p. 76, note 208): see XXVII.

XVII Ōuchi uji okitegaki. Quotation in NKDJ 1:384-385 (p. 30). 120

XVIII: Rakuami poem. Rendered in Japanese in Nishiyama 1976:162 (addenda). 120

XIX: Sanjū-niban shokunin uta-awase emaki (SSUE), no. 6. GR 28:455 (p. 31). 120

XX: Shasekishū. Quotation in KS 2:34 (p. 85). 120

XXI: Shasekishū. Quotation from KS 2:34 in Nakatsuka 1979:45 (p.85). 120

XXII: Shichi-jū-ichiban shokunin uta-awase (SISU), no 46. GR 28:554-555 (p. 91). 120

XXIII: Shikoji oyobi furoji. Quotation (?) in Nakatsuka 1979:428 (p. 79). 121

XXIV: Ts'an-t'ung-ch'i. Quotation in Japanese in ZJ:1397 (p. 37). 121

XXV: Tsurezuregusa nozuchi. Quotation in Kurihara 1975:88-90 (p. 92). 121

XXVI: Yoshino shūi. Quotation in KR 35:1002 (p. 101). 121

XXVII: Zenkoku Fukeshū ji-in ichiranhyō,[a] 'Complete list of Fuke sect temples in Japan', compiled by Nakatsuka Chikuzen. Nakatsuka 1979:96-101 (p. 76, note 208). 122

a) 全國普化宗寺院一覽表

The Kaidō Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2002.

The Kaidô Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2003.

I

ごとく其形狀は【ぼろ〳〵の草子】（明惠上人の作なり）に「兄弟の出家あり兄を蓮華房弟を虚空房とぞいふ兄は念佛修行に諸國を廻り弟は活僧の風を學び頭髮を半にきりて繪がきたる紙衣をきて一尺八寸の太刀をはき八尺の檜木の捧をつき諸國を行」

暮露といふものその所行右の

II

明惠上人

のぼろ〳〵の草紙にも暮露の由來を說いて「むかし油を賣りて業とせる一人の女ありけるが、其容貌醜くして白晝人に遭ふを厭ひ、暮方のみ市に露れしを以て暮露暮露と云ひたりとぞ、二人の子あり兄の蓮華坊は念佛修行に諸國を巡り、弟の虚空坊は活僧の風を學び、異形の風を以て諸國を巡れり云々」

III

仏言

凡尺八者、三国有伝、天竺七節、大唐五節、日本三節、用事口伝有之、虚無僧尺事目録、尺八之地也。

○

夫尺八者、無中進理忘相、解説之音楽也、意趣如何、止衆生悪、為仏邪念也云々。

尺八之円形成者、法界遍満之儀也、上之切口金剛天也、下之切口胎藏界也、地節拔事、邪正一如、拔一節之尺八者、三世不可得義也、表之四穴者、顕春夏秋冬之四時、又標地水火風四、又裏之一穴、則空義、合地水火風空之五体也、故五音五調子、音声五智之如来説也、取於尺八、吹入息、根本出生金風也、又吹出、永言現在安楽吹也、又吹止、則一息断命処也、又而仏前吹時、道含識、草木国土森羅万象悉皆成仏吹也、又而智識吹時上求菩提吹也、対平人吹時、下化衆生吹也、依之尺八聴聞人者、滅三身口意業障、除逆闇無明之煩悩、自他平等利益也。

凡尺八者、三国相伝来、於天竺、無定辺菩薩、七節之尺八吹、則表七仏、於大唐者、普化和尚、五智五節之尺八吹、則表五節、或三節之尺八、則是三節三身、日本山城国宇治之里、虚無僧一代秘藏之切紙、仍所録如件。

表之穴者、春夏秋冬、又地水火風也、裏之穴者、空之義也、踏飜生死一忌帰羨、江湖雲水身、十地街道吹尺八、東西南北自由身、普化禪師居常入市、振鐸曰、明頭来明頭打、暗頭来暗頭打、四方八而連架打、凌霄峯頂看雲人、普化堂中第一祖。

○

夫尺八者、沙門四十八道之具之一也、或三尺雖随気分、因得寸長尺短不理也、是尺八一本之虚象虚道也、上下截口、天地也、亦現金胎両脚奥穢也、五歌口、空風火水地、亦空眼耳鼻舌身是也、地魚皆帰空、中虚比耳鼻舌身是也、名加守護五如来、吹之則除異念、去邪路、此時上至有頂天、下金輪水際、皆是徹妙音声、無間堅辯、両手横技、是則又手当胸理也、是亦禅定三昧也、坐禅是亦安楽之法門也、一張弓、両段箭駕、是禅定三昧也、行亦禅、坐亦禅、語默、諍休、安全吹尺八、則更自無他無、魚唯是虚用也、天地同根也。

普化禅師禅宗僧、日本国中、吹尺八者、東西南北自由身、諸所関所番所、在々町々、一通修行、是異議有間敷候、如前書之趣、東照宮之御朱印ヲ加故、御用判ト名附タリ」

IV

〔普化宗門掟書〕[1]火下派、後改活總、[2]斳詮派、後文字改金先、[3]寄竹派、[4]梅士派、[5]夏漂派、後改小菊、[6]司祖派、後改根笹、[7]不智派、[8]養澤派、在山城國、[9]芝隣派、在山城國、[10]義文派、在九州、[11]隱巴派、在九州、[12]宗和派、在北國、[13]錐南派、在石見國、[14]短尺派、在奥州、[15]野木派、在尾張國、[16]兒派、在尾張國、

V

宮城野の露吹きむすぶ風の音に、小萩がもとを、思ひこそやれ。

【今物語】に門の下に法師のまことにあやしげなるがかしらはおつかみにおひてかみきぬのぼろ〳〵とあるうちきたる暮露と書はかななり

VI

PDF-page:

一一、一絲和尚虛無僧本則

□□□□於□□□貴其名曰山堂(無月カ)□□庵主其宗曰虛無自然我聞□人虛無本源竺土有狐伯僧□中興也、支那有普化我朝自法燈國師會裡得始祖如何國師入唐時虛無四人各從國師而得來本朝、然後四老之派脉分作四爾來洋々乎偏扶桑國雖然今時修行小保戒律而已、顧其爲人十之九者不徹宗旨本源徒作席帽下之愁人而東走西奔空傍人門戶而已、雖喫寶積肉殘不翻普化筋斗一箇尺八人々雖具足只耳處聞聲未眼處聞聲、夫尺八者製以竹之三節□中空洞而有風路之通四孔與一孔各表裏、古人以一管而調一音若無五管難調五音、今人以五管而調十二律其巧倍于古者也、或謂之竹笛或尺八或謂玉簫或洞簫名異而物同、蓋夫雖不知王珪魏澄製作之旨若以吾宗論之三節是表貪瞋癡之三毒前後之五孔準眼耳鼻舌身意之五蘊、尺與八表順逆之八境界中間之洞通是圓融無礙之法也、玆以一聲吹起則即時返三毒無明而作三聚淨戒與少林無孔笛同其聲與靈山無絃琴合其曲一曲兩曲曾無人會季老君雖弄玉簫不知有妙音芳介然雖善竹笛不會有奇聲、予告曰山堂無月庵□□□庵主莞爾而下聲之一字而已、可謂游戲洞山禪林聽五位唱投入濟家法窟弄三玄曲、野衲熟視菴主之四威儀自然慴(マヽ)普覺禪師意者乎平生不讀書玆以無明少不做得官、玆以人我少天質近道不物親戚一箇自由不吝、去留十方同聚會蹈々焉閒閒焉浪與不留朕跡走俗狀而抗塵容譬、爾不慕榮利(栄カ)塞厚望而應明旨不素富貴常行貧賤、所居不過容膝所不過適口不辭人所施嘔喩而受之、雖然如斯隨分而施與不爲物我町畦堪笑婦姑勃磎、寒暑雖切肌不服絺綌之凉不襲縕纊之温、逢冬則遠侍者紙衣當夏則蘇居士大布耻介拔俗耻然離世其樂陶誰敢不嘆美乎、雖然有些□禪病性好酒而甚辟、古人曰酒毒是犯心戒之主張也不可愼乎、縱擧盃而雖灑于面須觀無色界、庵主答曰牛蛇飲水或爲乳或爲毒於戲至矣盡矣盡矣又何言哉

示虛無僧爲山堂無月菴主

(文守)一絲和尚述也

The Kaidō Hōnsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2002.

× ×

次は寛永五年の暮露即ち虚無僧の狀況である。
此原本は長さ八尺四寸竪四寸六分、鳥の子様の少し厚い
巻紙である。

○法燈國師歸朝之節行來四居士、國佐理正僧恕寶伏、海
道本則紀伊國由良ヨリ出

薦ハ何クカラ來テソフロ、暗頭來也、暗キ國カラカ、明
頭來也、明ナル國カラ歟、コモノカムリタル笠ニ不審カ
候ヨ、ソレ天蓋トモ申ナリ、肩ニカツキタル布ニフシン
ガ候ヨ、神ノ前テノ御斗帳、佛ノ前テノ鐘ノ緒、虹蟠ト
モ申ナリ、セヲフタ二枚ノ御座ニフシンカ候ヨ、サン候
地水火風空ノ義ナリ、下一面目ハ三世不可得ノシメカク
シノギナリ、中ニ入テセヲフタ袋ハフシンガ候、ソレ天
地ヲ沙汰シタ乾坤トモ申也、上ニ着タル網ニ不審カ候ヨ
海道ヲ回セシメカタメノ定袋トモ申ナリ、結タル繩ニフ
シンカ候ヨ、有無ノ二字トモ申ナリ、前ニ入タル袋ニ不
審カ候ヨ、五體ノ表スルナリ、夫六腹トモ申ナリ、中ニ
入タハ有雜無雜、色ハ青黄赤白黒也薦ノ持タル竹ニフシ
ンカ候ヨ、尺八者コモノ重寶ヲ以テ四節四穴ト表スルナ
リ、裏ノ一穴ハ一心菩提明ト表スルナリ、内ノ暗ノ閲魔
法界ノ家ナリ、三ツノ節ハ三身一體、本ノ切口ハ胎藏界
上ノ切口ハ金剛界、上ノ圓キ歌口ハ心月明ノマナヒナリ
合テ七百餘尊也
神ノ前ニテ吹時ハ五寒三熱ノ苦ヲ除カンカ爲ナリ、佛ノ
前ニテ吹時ハ無明煩惱眠ヲ覺サンカタメナリ、智者ニ向
テ吹時ハ平等專一切ノ息ヲ長メ無明凡身ヲ拂テ吹ベシ、
ソレ平人ニ向テ吹時ハ五相十相及盡回向ト云也。
コモト云フソノ水上ヲタツヌルニ古モナク今モナシ、亦
云、三界ハ無法見、見モノヽマヽニ柳ハ綠、花ハ紅トモ
申ナリ、コモト云、ソノ水上ノナカリセハ世ニヲチ人ノ
家ハナキモノ、サテ亦長門ニテ赤間關、洛陽ニテ相坂ノ
關、今役ナクシテ天地同根萬物一體、天地豐鏡ノコモニ
關モ役モナシ。
薦ノハイタル草鞋ニ不審候ヨ、磐石ヲ踏定メンガ爲ノワ

— 23 —

ラジナリ、歌ニ云、
尺八ノ聲ノ内ナル隱カヲ、タツネテ見ハ元ノ竹カナ、
切レコモハ見事ノ竹ヲ持テソフロ、五尺ノ境界スゴサン
ガタメ薦ハ目ヲアマタ持テ、ナゼニ獨子ヲスルゾ、面ハ
四目也、前ハ人ノ目ナレハ終ニ我トネル故ニ、尺八聽聞
ノ方ハ一息截斷ノ心ヲナシ、無明凡身ヲネムリヲ拂テ聽
聞ヲ致スベシ、歌ニ云、

○尺八ノ聲ノ内ナル隱レカハ
宮城野ニ吹春ノ風カナ

コモノ捧ニフシンカソフロ、ギヽスレハ白雲萬里、コモ
ノ指タル刀ニフシンカソフロ、屏風カ蒲團カ、普化ハ七
腰サシタト申。

○薦僧開山普化和尚末派十六派アリ

1 一 ワカサリ門派
2 一 筑紫ニイヌヤロウ門派
3 一 北國ノキハ門派
4 一 中國ニノキハ門派
5 一 伊勢ニサカハヤシ門派
6 一 五畿内ヤワタノキハ門派
7 一 武藏ニカヽリ門派
8 一 美濃ニ若衆門派
9 一 上州ニサラハ門派
10 一 中武藏ニヨリタケ門派（禪曰、寄竹派）
11 一 下總ニキンゼン門派（禪曰、靳先派）
12 一 下野ニコキクハ門派
13 一 奥州ニタンシヤクヨロコヒ門派
14 一 常陸ニウメジ門派（禪曰、梅地派）
15 一 奥州ニタンシヤク派ヨ
16 一 北國ニカンタンキノハ門派
リワカル派アリ

暮露

寛永五仲春念一日

The Kaidô Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2003.

八、暮露虚無僧本則

（端書）（異筆）
「法燈國師歸朝之節連來四居士、國佐、理正、僧恕、實伏、」
（端書）
「海道本則紀伊國由良ヨリ出、」

鷹ハ何クカラ來テソフソ（ロカ）、暗頭來也、暗キ國カラカ明頭來也、明ナル國カラ歟、コモノカムリタル笠ニ不審カ候ヨ、ソレ天蓋トモ申ナリ、肩ニカツキタル布ニフシンガ候ヨ、神ノ前テノ御斗帳、佛ノ前テノ鐘ノ緒、虹蟠（マヽ）トモ申ナリ、セヲフタ二枚ノ御座ニフシンカ候ヨ、サン候、地水火風空ノ義ナリ、下一面（マヽ）目ハ三無不可得ノシメカクシノギナリ、中ニ入テセヲフタ袋（ニカ）ハフシンガ候、ソレ天地ヲ沙汰シタ乾坤トモ申也、上ニ着タル網ニ不審カ候ヨ、海道ヲ同センカタメノ定袋トモ申ナリ、結タル繩ニフシンカ候ヨ有無ノ二字トモ申ナリ、前ニ入タル袋ニ不審カ候ヨ五體ヲ表スルナリ、夫六腹トモ申ナリ、中ニ入タハ有雜無雜、色ハ青黄赤白黒也、鷹ノ持タル竹ニフシンカ候ヨ、尺八者コモノ重寶ヲ以テ、四節四穴ト表スルナリ、裏一穴ハ一心菩提明ト表スルナリ、内ノ暗ハ閻魔法界ノ家ナリ、三ツノ節ハ三身一體、本ノ切口ハ胎藏界、上ノ切口ハ金剛界、上ノ圓キ歌口ハ心月明ノマナヒナリ、合テ七百餘算ナリ、神ノ前ニテ吹時ハ、五裏（衰カ）三熱ノ苦ヲ除カンカ爲ナリ、佛ノ前ニテ吹時ハ、無明煩惱ノ眠ヲ覺サンカタメナリ、智者ニ向テ吹時ハ、平等專一切ノ息ヲ長メ、無明凡身ヲ拂テ吹ベシ、ソレ平人ニ向テ吹時ハ、五相十相及盡同向ト云也、コモト云フソノ水上ヲタツヌル（逢カ）ニ古モナク、今モナシ、亦云、三界ハ無法、見モノヽマヽニ、柳ハ綠、花ハ紅トモ申ナリ、コモト云ソノ水上ノナカリセハ、世ニヲチ人ノ家ハナキモノ、サテ亦長門ニテ赤間カ關、洛陽ニテ相坂ノ關、奥州ニテ白河二所ノ關、三關今役ナクシテ、天地同根、萬物一體天地豊饒ノコモニ、關モ役モナシ、鷹ノハイタル草鞋ニ不審申候ヨ、盤石ヲ蹈定メンガ爲ノワラヲナリ歌ニ云、尺八ノ聲ノ内ナル隱レカヲタツネテ見ハ元ノ竹カナ、切レコモハ見事ノ竹持テソフ（ロカ）、五尺ノ境界ス

The Kaidō Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2002.

ゞサンガタメ、薦ハ目ヲアマタ持テ、ナゼニ獨ネヲスルソ、面ハ四目也、前ハ人ノ目ナレハ、終ニ我トネル故ニ、尺八聽聞ノ方ハ、一息截斷ノ心ヲナシ、無明凡身ヲネムリヲ拂テ聽聞ヲ致スベシ、歌ニ云、尺八ノ聲ノ内ナル隱レカハ、宮城野ニ吹春風カナ、コモノ棒ニフシンカソロソ、ギ(マヽ)、スレハ白雲萬里、コモノ指タル刀ニフシンカソロソ、屏風カ蒲團カ、普化ハ七腰サシタト申、

薦僧開山普化和尚末派十六派アリ、

1 一ワカサリ門派、
2 一筑紫ニイヌヤロウ門派、
3 一北國ノキハ門派、
4 一中國ニノキハ門派、
5 一伊勢ニサカハヤシ門派、
6 一五畿内ヤワタノキハ門派、
7 一武藏ニカヽリ門派、
8 一美濃ニ若衆門派、
9 一上州ニサラハ門派、
10 一中武藏ニヨリタケ門派、
11 一下總ニキンゼン門派、
12 一下野ニコキクハ門派、
13 一奥州ニタンシヤクヨロコヒ門派、
14 一常陸ニウメヲ門派、
15 一奥州ニタンシヤク派ヨ、
16 一北國ニカンタンキノハ門派、(マヽ)リワカル派アリ、

寛永五仲春念一日

暮雲

The Kaidō Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2003.

次は寛永五年の暮露即ち虚無僧の状況である。

此原本は長さ八尺四寸竪四寸六分、鳥の子様の少し厚い巻紙である。

○法灯国師帰朝之節行来四居士、国佐理正僧恕宝伏、海道本則紀伊国由良ヨリ出

薦ハ何クカラ来テソフロ、暗頭来也、暗キ国カラカ、明頭来也、明ナル国カラ歟、コモノカムリタル笠ニ不審カ候ヨ、ソレ天蓋トモ申ナリ、肩ニカツキタル布ニフシンガ候ヨ、神ノ前テノ御斗帳、仏ノ前テノ鐘ノ緒、虹蟠トモ申ナリ、セヲフタ二枚ノ御座ニフシンカ候ヨ、サン候地水火風空ノ義ナリ、下一面目ハ三世不可得ノシメカクシノギナリ、中ニ入テセヲフタ袋ハフシンガ候、ソレ天地ヲ沙汰シタ乾坤トモ申也、上ニ着タル網ニ不審カ候ヨ海道ヲ回セシメカタメノ定袋トモ申ナリ、結タル繩ニフシンカ候ヨ、有無ノ二字トモ申ナリ、前ニ入タル銭ニ不審カ候ヨ、五体ヲ表スルナリ、夫六腹トモ申ナリ、中ニ入タハ有雑無雑、色ハ青黄赤白黒也、薦ノ持タル竹ニフシンカ候ヨ、尺八コモノ重宝ヲ以テ四節四穴ト表スルナリ、裏ノ一穴ハ一心菩提明ト表スルナリ、内ノ暗ハ関魔法界ノ家ナリ、三ツノ節ハ三身一体、本ノ切口ハ胎蔵界上ノ切口ハ金剛界、上ノ圓キ歌口ハ心月明ノマナヒナリ合テ七百余尊也神ノ前ニテ吹時ハ五寒三熱ノ苦ヲ除カンカ為ナリ、仏ノ前ニテ吹時ハ無明煩悩眠ヲ覚サンカタメナリ、智者ニ向テ吹時ハ平等専一切ノ息ヲ長メ無明凡身ヲ払テ吹ベシ、ソレ平人ニ向テ吹時ハ五相十相及盡回向ト云也。

コモト云フソノ水上ヲタツヌルニ古モナク今モナシ、亦云、三界ハ無法見、見モノヽマヽニ柳ハ緑、花ハ紅トモ申

ナリ、コモト云、ソノ水上ノナカリセハ世ニヲチ人ノ家ハナキモノ、サテ亦長門ニテ赤間関、洛陽ニテ相坂ノ関、今役ナクシテ天地同根万物一体、天地豊穣ノコモニ関モ役モナシ。

薦ノハイタル草鞋ニ不審候ヨ、磐石ヲ踏定メンガ為ノワラジナリ、歌ニ云、

尺八ノ声ノ内ナル隠カヲ、タツネテ見ハ元ノ竹カナ、

切レコモハ見事ノ竹ヲ持テソフロ、五尺ノ境界スゴサンガタメ薦ハ目ヲアマタ持テ、ナゼニ独子ヲスルゾ、面ハ四目也、前ハ人ノ目ナレハ終ニ我トネル故ニ、尺八聴聞ノ方ハ一息截断ノ心ヲナシ、無明凡身ノネムリヲ払テ聴聞ヲ致スベシ、歌ニ云、

○尺八ノ声ノ内ナル隠レカハ

宮城野ニ吹春ノ風カナ

コモノ棒ニフシンカソフロ、ギヽスレハ白雲万里、コモノ指タル刀ニフシンカソフロ、屏風カ蒲団カ、普化ハ七腰サシタト申。

○薦僧開山普化和尚末派十六派アリ

1 ワカサリ門派
2 筑紫ニイヌヤロウ門派
3 北国ノキハ門派
4 中国ニノキハ門派
5 伊勢ニサカハヤシ門派
6 五畿内ヤワタノキハ門派
7 武蔵ニカヽリ門派
8 美濃ニ若衆門派
9 上州ニサラハ門派
10 中武蔵ニヨリタケ門派（禅曰、寄竹派）
11 下総ニキンゼン門派（禅曰、靳先派）
12 下野ニコキタハ門派
13 奥洲ニタンシヤクヨロコヒ門派
14 常陸ニウメジ門派（禅曰、梅地派）
15 奥州ニタンシヤク派ヨ
16 北国ニカンタンキノハ門派

暮露

リワカル派アリ

寛永五仲春念一日

The Kaidō Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2002.

The Kaidô Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2003.

XI

〔嬉遊笑覽六上〕放逸無慚にしていさみある者故に、後世遊俠を好む徒、尺八を習ひて吹たり、見聞集に大鳥一兵衛といふ者、士農工商の家にもたづさはらず、當世異樣を好む若黨を伴ひ、男のけなげだてたのもし事のみ語り、常に危き事を好で、町人にもつかず、侍にもあらず、その者武州八王子酒屋にて古無僧と爭ひして、尺八を尻より吹たる物がたり有、これ男達といふもの、尺八を吹始めなるべし、江戸枝折に、尺八あはざからすの鳴ならし、彼五人男などいひしたぐひのわる者を云なるべし、大阪新町の廓の内に新京橋町新堀町二丁目は、古へ阿波座にありしを、慶長年中此所に移さる、因てこれなあわざといふ、

XII

われ武州八王子の町酒屋に有て酒をのみしに、虛無僧一人尺八を吹て門に立たり、我此者をよび入あら有難の修行者や、御身ゆゑある人と見へたり、世にをち人にやをはすらんと、酒をもてなし、此一兵衛も若き比は尺八を吹たり、虛無殿の尺八一手望みなりといへば、此者曲を一手吹たり、我聞て打笑ひ、しりをまくりあげ尻を打たゝいて、虛無殿の尺八ほどはわれ尻にても吹べしと言へば、虛無大に腹を立、無念至極の惡言かな、われいにしへは四姓の上首たりといへ共、今は世捨人となる、然共先業をかへり見、貧賤をなげかずして、佛道の緣に取付、宗門に思ひをすまし、內に所得なく、外に所求なく、身を安くして普化上人の跡をつぎ、一代教門の肝心出離解脫の道に入、修行をはげますといへ共、惡逆無道の一言にわれしんいのほのほやみがたしすがたこそ替れども所存にをいて替るべきか、是非尻に吹せて聞べしと言

第四編　尺八の變遷　一八三

尺八史考　一八四

ふ、此一兵衛も尤しりにて吹くべしといへば、互にかけ物をこのみしに、虛無言けるは親重代に傳はる、吉光の脇さし一腰持たりとて座中へ出す、此一兵衛も腰の刀を出すべし、此刀と申はわれしたはら鍛治を頼み、三尺八寸のいか物作りにうたせ、二十五年までいき過たりや、一兵衛も名を切付一命にもかへしと思ふ一腰を出す、町の者兩方のかけ物を預り、一兵衛が尻にて吹く尺八きかんと云、其時我れ虛無が尺八をとつてさかさまに取なをし尻にて吹ければ、皆人聞て實に虛無が口にて吹たるより、一兵衛が尻にて吹たるが增りたるといへば、我此あらそひにかちたり、各々かようの事にそにんあらば、八王寺町の者共へ尋給へと云、皆人聞て拔こそ一兵衛木石にても非ず、物をいひそめけるぞや、

PDF - page: 127

The Kaidô Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2002.

〈虚霊山縁起並ニ三虚霊譜辯〉

夫生入棺中、使人釘々、脱出自在者、臨済会裡風顚漢也、我国汲其流、拈尺八、吹起無生曲者、虚霊無為之虚竹也、人呼称虚無僧矣、或問、紀州由良興国門下有虚無僧、其来由何如、答、興国開山法灯国師入宋帰国之日、宋地国作、宗恕、理正、法普之四居士随侍来于我邦、皆是風顚漢、而以普化為祖、以尺八為法器、幽栖鷲峰遂谷、毎常弄尺八為遊戯三昧、其旧跡于今号普化谷。

或時居士乗小船逍遥、吹尺八於霧裏、馨隠々焉、時有一武士、遙聞其雅音、忽然発深省、便放下兵器登鷲嶺、参礼法灯国師、国師授之以普化明暗本則、接得渠、渠打成一片修禅定、若纔有一念警起、則従四居士伝尺八譜、陶然吹之、散除迷雲、竟悟大道、伝法於法灯国師、号曰暮鼓虚竹、此虚竹所以継普化、立一派於日本国、而尺八之譜所由起也。

虚竹有投機偈云、「従截断両頭後、尺八寸中通古今、吹起無生真一曲、三千里外絶知音、」

嘗虚竹在城州宇治、号朗庵主、命終樹塔於宇治郡五箇庄中、人呼為普化塚也。

至於第二世明普、居于洛東、建立虚霊山明暗寺、於今普化一流相承来也、乃以潤月為中興也。

問、尺八有三虚霊之秘手、今之吹尺八者、雖聴其名、不知其字義、請為我朗説、答、道個於明暗寺秘而不浪伝者也、雖然、言者載道以伝、若不言或失其伝、嗟秘之何為夫三虚霊者、一霧海虎、二嘘鈴、三虚空、其謂之三霊霊譜、且又虚霊者明暗寺之山号、採諸徳山所謂虚而霊、空而妙之語也、明暗者、依于普化本則以為寺号也、今吹尺八

俗漢、不知嘘鈴本字、臆断以為虚霊、可謂大誤也、其所謂虚霊者、三曲之綱領而、嘘鈴者三曲中之目者也、不可不分綱目而知派本者哉、問、三虚霊字義、垂司南惟幸答曰、霧海虎者、虚竹始聴霧裡尺八、而発大道心、然則尺八即是謂霧海南針也、可由是造此譜名曰霧海虎也、虎音池楽器以竹為之、毛詩曰、仲氏吹篪、釈名云篪啼也、声従孔出、如嬰児啼也、嘘鈴者虚竹於普化本則悟道、故以尺八拈為鈴鐸、視之、吹出一曲、命曰嘘鈴也、嘘吹也、又、出気急曰吹、緩曰嘘、吹気出於肺属陰、故寒、嘘気出丹田属陽、故温、蓋嘘鈴所謂嘘乎、鈴鐸之義也、虚空者無心空妙之譜、此亦出自普化本則得其名也、如上三譜是為本源、而後□有譜曲皆出也、勿慮尺八者空虚而霊妙豈非虚竹所謂無生真一曲哉。

我宗古尊宿、間有拈尺八示人、風穴和尚云、十字街頭、吹尺八、載在伝灯録、紫野一休和尚上堂於須弥座上、拈出尺八吹一吹、見狂雲集、顧夫虚竹聴尺八悟道、以尺八一生受用、乃至於其由尺八悟玄旨、如棒焉而両喝焉、而雷目挑而目綻、耳竹而耳通、亦其致一也、若或以尺八徒為游山翫水之具、則与彼虚竹業懐大隔霄壌也。曰興国寺者日本四箇道場之一也、今属妙心派下、是以普化一流亦流入正法海中、粤厥、当於開山国師三百五十厳諱之辰、明暗住持幻堂座元、率其徒眠好春宵二人、拝謁微笑塔下奏尺八数曲、以為法楽供養、自爾以降普化嘉声籍々焉振于朝野、爾後軍于眠好薫席、欽奉、霊元法皇之勅命、在于禁庭吹尺八関、大悪叡慮、寔是普化一派之栄輝、何以加焉、矧亦眠好、與院宇廃輪奐改観、誰不美其功哉、埜衲不堪随喜、併書永貽厥后毘者矣。

再住妙心賜紫沙門正法山中大通、彩雲菴禅倘柱讃　享保廿乙卯九月吉辰

附与

明暗寺当住　寛堂宥座元

……（少空白）……

禅倘老翁幽棲於彩雲菴日、記虚霊山明暗寺縁記、而書之以隙決□故、享卯秋後、為造化児、不起床、菴忽即世、其後明暗現住一宥子来乞、令山埜書其余不獲辞、謾模糊矣、誠是続貂以狗尾者乎。

元文開元天九月吉日

前妙心賜紫沙門

現大通、旭、大禅、叟、書焉

（印）（印）

……（以下一尺余白）……

〈虚鼠伝記〉

酒翁曰、昔化譜師唐人也、嗣釈教而三十八世、一、釈迦牟尼 曇阿迦葉 阿難 商那和修 優婆毱多 提多迦
弥遮迦 婆須蜜 仏陀難提 伏駄蜜多 脇 富那夜奢 馬鳴 迦毘摩羅 龍樹 迦那提婆 羅睺羅多 僧迦難提
迦耶舎多 鳩摩羅多 闍夜多 婆修盤頭 摩拏羅 鶴勒那 師子 婆舎斯多 不如蜜多 盤若多羅 菩提達磨
慧可大祖 僧璨 道信 弘忍大満 慧能大鑒 南嶽 馬祖 盤山 昔化譜師

当世之一大智識也、在于臨州而自甘狂癡、振鼠游于市対人、毎日明頭来明頭打、暗頭来暗頭打、四方八面来旋風打、虚空来連架打、一日河南府張伯者、聞此語大慕鼠師頂徳、請従遊之鼠師不許、張伯営嗜酒、及聞鼠師鼠音而頓制酒而摹之、恒弄其音而不敢吹他曲、以酒為鼠音、故号為虚鼠也、以伝其家、十六世、

張伯、金、斬、権字大量、充、陵、沖、玄、思、安、堪、廉、直、章字子璞、椎、参

孫、名参、壮年而能熟此音、且為性嗜仏教、到舒州龍門謁国寺、学画于寺僧、本邦僧学心者亦游学于此、同学相唱和而与参友善矣、一時閑話之次語、及先世伝虚鼠今尚存其曲事、且請之弄之一奏入妙、学心一賞三嘆脆坐膝行曰、奇哉妙哉、世之於楽者、未聞如此清調妙曲、可賞可愛者、伏請教授一曲、長伝妙音于日本、於此為学心再来之、使之学此、学心学之有日、嘗已熟、曲已就、而告別于張参游舒州、而帰国于明州、南宋理宗宝祐二年、帰朝于本邦、于時後嵯峨天皇建長六年也、自是学心、或南野山入、或出洛陽城、逍遊有年、遂立一寺于紀州、号西方寺、而終住于此、以其頑癡世号大癡師、弟子日益盛。

徒中有竺仗者、以叡心深切、敬師益甚、学心亦親昵之最于他弟子、一時学心告之、以在宋之時伝得虚鼠音今尚能調之、且請、欲長授于汝而嗣此之伝、竺仗踊躍拝謝、伝此之音、熟習嘗弄日不置、他弟子、国作、理正法普、宗恕、四人亦能学此管、世称之四居士。

後年竺仗以行脚之志告暇、且請、道路每戸発此音、以為往来、使世人知此妙音、学心曰、善哉志也、於此直発紀州、無日到于勢州、朝熊嶽上虚空蔵堂下通夜、抽懇丹誠、暁拝及五更、将少就眠、頭然有霊夢、海上掃小船、泊賞明月、頃朦朧破而月色暗々冥、雲中管声発而冪々溶々妙音不可言尽、須臾而管声断、叢雲漸々凝結而為団々雲、一塊々中又管声発、奇声妙音、世之未可得聞之者、夢中大感之、欲将虚鼠模倣之、則忽覚眠覚、霊境船掉無迹、唯管声之餘于耳而已、竺仗大奇之、謂弄虚鼠、掌擬夢中所聞一曲、大得其音、於此直帰于紀州、告夢及所得音于師、且請命此之一曲、師後称法灯国師者是也、曰、仏授哉、先所聞号霊海潮、後所聞号虚空蔵、自後竺仗往復通行之路、弄始所伝之虚鼠、或応世人強請帝曲、則弄今所得之一曲、後世僧徒不知之、妄弄一曲、以為常虚鼠為曲名不為之器名、加之、以器相似、転鼠為笛、称虚笛為曲、大失古義、且後世僧徒各自、為新為奇千曲万手随意発音、張伯之志忽滅絶矣、悲哉。

竺仗後称虚竹先生者是也、晩年在于洛東、徘徊于皇城、終伝此音於鷹哉、鷹哉伝之儀伯、儀伯伝之臨明、臨明伝之虚風、虚風伝之虚無。

虚無即敏達帝後胤惟正勝也、南朝敏而一門盛没、義気雖烈、勇志雖剛、知時之不可為、蔵入淡海之中、会虚風、而嗣此伝、不剃髪、不着法衣服、俗衣不為文、袈裟絡、抱米嚢、荷圓笠以蔽面、逍遥于城市、戸々発虚鼠、遠行即服上流手巾、著麻鼓草鞋、大包袱方五尺也以蔽風子、乾坤張。

小板以為之、一面書乾坤張三字、一面書不生不滅四字。以張之、中結、
以木綿為之、長短因副子大小。

以結之、行李盛于此、以負之、往以見虚風、虚風座問曰、狂客此何状乎、対曰、在昔先師普化嚢師遊于城市、振鼠而為狂、小子亦欲倣之、且小子新制法度、以虎圓笠号天蓋、以脱為不不敬、蔽以対客、此即市中之楽運棚居耳、且吾輩之僧死、即於市以包尸、副子以為席、中結以結之、埋之土中、乾坤張以為墓銘、虚鼠以為楽葬、行厠中死者、欲一以之為法度、意夫子意如何乎、虚風感賞唯々而退別。

爾後虚無遍遊于五畿七道、以奏虚鼠音、世人問曰、子是何者乎、対曰、僧虚無、於此乎世人称此徒為虚無僧諸国門人多為此状、甚則至于為鉄頭、帯煩当、佩長刀或七首。

虚無帰于江州蒲生志賀之辺、而伝之儀道、儀道伝之自寛、自寛歴八代。

自寛、可笑、空来、自空、慕中、一獣、善明、知来。而伝知来、此時既無有知虚鼠之名、唯称虚笛而為曲耳、其称尺八者、善和其爾来知誰命之、知来伝之宇、宇伝之無風、無風或改他師而為無盡之調曲。

The Kaidō Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2003.

The Kaidô Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2002.

XV

しものの如し、凡そ普化宗は初め「養[1]澤派、義[2]文派、芝[3]鄰派、隱[4]巴派、碓[5]南派、野[6]木派、兒[7]派、小[8]菊派（初夏渾派と云）金[9]先派（斬詮派と書す）括[10]惣派（初火下派と云ふ）梅[11]地派、寄[12]竹派、根[13]笹派（初司祖派と云）不[14]智派、短[15]尺派、宗[16]和派」等の十六流派ありし

XVI

因普化常於街市搖鈴云明頭來明頭打暗頭來暗頭打四方八面來旋風打虛空來連架打（此數語者與石頭和尚云恁麼亦不得不恁麼亦不得恁麼不恁麼總不得意味太甚切近矣）師令侍者（舊註以此侍者爲洛浦元安禪師相傳古抄也）去纔見如是道便把住云總不與麼來時如何普化托開云來日大悲院裏有齋侍者回擧似師師云我從來疑著這漢

XVII

文明一八年四月二九日、「薦僧、放下、猿引事、可払当所并近里事。」

[90条]

XVIII

両頭を截断してより尺八の内、古今に通ず、吹起す無常心の一曲、三千里外に知音を絶すと作られたり」

XIX

六番

左　筭をき

をくさんのさうしやうしたる花の時風をはいれぬ五形也鳧

「右勝　虚妄僧

花さかりふくとも誰かいとふへき風にはあらぬこもか尺八」

筭道の指南。五形の相尅相生を本躰にて。一切の吉凶を判定する事なれば。花の時の相生に。風をばいれぬ五形と勘あげぬるいと興あり。「薦僧の三昧紙ぎぬ肩にかけ。面桶腰につけ。貴賤の門戸によりて。尺八ふくほかには。別の業なき者にや。」さればふくとも誰かいとふべきといひて。風にはあらぬこもの尺八とよめるに。花盛とをける五文字。風なき花の時節。ふく尺八の興は一しほなるべく。いひいだせる尤よろし。筭をきの五形よりも。こも僧の「曲やさしくきこゆるにや。

XX

兼好が物語の暮露此さまにこそ【沙石集】(八)「ある入道法師云々所領得替の後はひたすら暮露々々の如くにて惟に紙衣をきてねるその頃いまだ尺八をふかず其後薦といふはむしろをも負てありければなり

XXI

「ひたすら暮露〳〵の如くにて帷に紙衣を着て寢る、」其頃未だ尺八を吹かず、薦僧といふは、むしろを負てありければなり

「沙石集」には

XXII

四十六番

法の月廣くすまして武藏のに起ゐる暮露の草の床哉

住吉の入江の月や故郷の姑蘇城外のあきのおもかけ

暮露の心。月いる許の法の光をか廣め侍べき。信仰もなく覺ゆ。右。住の江の月に對して。名高き楓橋のわたりをも。我故郷と云出たる所。他人のをよばざる風躰。かの仲麿が。三笠の山の月にも。澄増りてこそ侍らめ。

いとふなよかよふ心のむまひしり人の聞へきあの音もなし

唐大和しるへするみのかひそなき思ふ中には言かよはさて

右は。只よの常のことはり聞えたるのみ也。左の馬聖は。あの音せず。ゆかん駒もがといへる万葉の古風も。よりきたりて神妙に侍り。尤可爲勝

暮露。

PDF-page: 130

XXIII:

四居士及び鳳皇寺

これは題目は掲げてありませんが私が仮りにコヽヶ命名しました。

虚無僧初発者、異国より普化宗弟四人、建保(長)元年紀州由良光(興)国寺開山法灯圓明国師渡唐(宋)、同六年九月廿七日帰朝の時、同船にて四居士日本来朝ス。

室伏居士、国作(佐)居士、理正居士、宗総居士

此四居士金仙澗(澗)僧虚竹等竹ノ一派ニ相分ル。

XXIV:

メーアソーソー(明暗雙雙) 正傳回互の理を示す語。明、明にして暗を離れず、暗、暗にして明に別ならず、卽ち明中に暗あり暗中に明ありて、明暗はもと全然獨立すべきにあらず、常に相對してなほ前後の歩の如し、此の理を明暗雙雙といふ。石頭大師の參同契に「明中に當つて暗あり、暗相を以て遇ふこと勿れ、暗中に當つて明あり、明相を以て視ること勿れ、明暗各相對して、比すること前後の歩の如し」とあるは卽ち此の理を示したるものなり。

XXV:

草野槌にぼろ〳〵、蓬露と書といへどもげに梵論とかくべきなり、梵字悉曇なといふ名もあればなり、ぼろ〳〵の草紙一巻あり、虚空坊といふもの身の長七尺八寸(九〇尺ハ寸ヲ見ヨ)力強しをがさかみざゐに一尺八寸の太刀をはさひるまきの八角棒をよこたへ一尺五寸の高履をはき髪長く色黒くしてぼろと云者になり一人の美女を妻とし同行三十人諸國をあるくといへり、其の後鷹僧と云もの僧とも見えず俗とも見えず山伏とも見えず刀をさし尺八を吹せなかにひしろをゐ道路をあるき人の門戸に立て物を乞もらふ是ぼろ〳〵の流也と云傳へたり。

XXVI:

吉野拾遺

つくしの宮(手ノ懐良親王)御としもゆかせ給はざる御時、尺八をめしてんせい妙を得させ給ふ、よしの川の御幸にふかせ給ふにぞ、見なれぬうろくづかずえれず水よりをとりあがり、うくにもめづらかに興ぜさせ給へばたぐひなき御事とぞ、

The Kaidō Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2003.

PDF-page: 131

The Kaidô Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2002.

	旧所在地	山号	寺号	所属	現該当地	同上交通
				● 金先派 Kinsen-ha		
1	下総国小金	金龍山	一月寺	觸頭	千葉県東葛飾郡小金町 Ichigetsuji	常磐線北小金
2	同 船橋	神明山	清山寺	一月	同 船橋町	總武線船橋
3	武蔵神奈川	青木山	西向寺	同	横浜市青木町横小路右側	
4	上總国土気	不動山	清岸寺	同	千葉県山武郡土気本郷町土気	千葉大網線土気
5	同 大多喜	長光山	折紙寺	同	同 夷隅郡大多喜町	同 木原線大多喜
6	同 谷中	松光山	松見寺	同	同 君津郡根形村谷中（或三黒）	同 房總西線佐貫附近
7	遠江国浜松	鈴蟬山	普大寺	同	浜松市	
8	筑後国柳川	大間山	江月院	同	福岡県山門郡柳川町	
9	同 久留米		林棲軒	同	同 久留米市	
10	安房国貝塚		永福寺	折紙	千葉県安房郡	
				● 金先派 西向寺末		
11	下總宝珠花	宝慶山	観念寺	西向	埼玉県北葛飾郡宝珠花村	東武鉄道幸手栗橋附近
12	相模国三浦	涌谷山	龍山寺	同	神奈川県三浦郡三崎町	横須賀線
13	駿河国府中	福聚山	無量寺	同	清水市	

	旧所在地	山号	寺号	所属	現該当地	同上交通
14	武蔵国目黒	流渓山	東昌寺	同	東京市目黒区目黒不動内	
15	同 本町田		大沢寺	同	東京府南多摩郡町田町本町田	小田急線
16	同 大谷		南松寺		同 南大谷	同
				● 活聡派 Kassō-ha		
17	武蔵国青梅	廓鈴山	鈴法寺	觸頭	東京府西多摩郡霞村新町 Reihōji	青梅鉄道青梅駅
18	同 布田	大光山	安楽寺	鈴法	同 北多摩郡調布町布田	京王電鉄布田
19	下總沢目木	亀宝山	東陽寺	同		
20	武蔵八王子	光輝山	沢水寺	同	東京府八王子柳沢	中央線八王子
21	相模伊勢原	照現山	神宮寺	同	神奈川県中郡伊勢原町	小田急線伊勢原
22	甲斐国乙黒	来機山	明暗寺	同	山梨県中巨摩郡稲積村乙黒	甲府龍王附近
23	上野国太田	養寿山	利光寺	武安	群馬県新田郡太田町	東武鉄道太田
24	肥前国長崎	長福山	玖琦寺	鈴法	長崎市古町検角松寿軒	
				● 活聡派 安楽寺末		
25	伊豆大井平	功徳山	瀧源寺	武安	静岡県田方郡下狩野村大平	駿豆鉄道修善寺附近
26	武蔵国上峰	龍峰山	松源寺	同	埼玉県北足立郡与野上峰	高崎線与野
27	同 小川	大永山	幸圓寺	同	埼玉県比企郡小川町	東武鉄道東上線小川

PDF - page: 132

The Kaidō Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2003.

PDF-page: 133

		● 虚竹派			Kyochiku-ha	
山城国洛外	虚霊山	明暗寺	一本	京都市大仏	Myōanji	
伊勢国白子	鈴法山	普済寺	京明	三重県河芸郡白子町		伊勢電白子
筑前国博多		一朝軒	同	福岡県博多		
石州銀山大村		西岸寺	同	元禄年中退転		
		● 吉竹派			Kichiku-ha	
武蔵国深谷	稲荷山	福正寺	五組	埼玉県深谷町	Fukushōji (?)	信越線深谷
常陸国筑波		古通寺	十五組	茨城県筑波町		筑波鉄道筑波
越後中之原	秀峰山	明暗寺	一本	新潟県西蒲原郡長沢村中之原新田		越後弥彦線越後長沢
上野国沼田	瀧坂山	圓宝寺	五組	群馬県利根郡沼田町		上越線
		● 小菊派			Kogiku-ha	
常陸国下妻		心月寺	十五組	茨城県真壁郡下妻町	Shingetsuji	常総鉄道
下総国結城		長全院	同	同 結城郡結城町		水戸線
下野祖母ヶ井		清蔵寺		栃木県芳賀郡祖母井村		真岡線
同 喜連川		常蔵寺		同 塩谷郡喜連川町		宝積寺北方
同 鍋掛		清岸寺		同 那須郡鍋掛村		西那須野附近
同 大田原		普慶寺		栃木県那須郡大田原町		東野線
		● 小笹派			Kozasa-ha	
上州太田	理光寺	鈴法寺	未成	同国瀬名光林寺退転	Reihōji	
		● 梅地派			Umeji-ha	
上野国高崎	金剛山	慈常寺	五組	高崎市	Jijōji	
同	大瀧山	青海寺	同	同		
同 白井	白井山	浄水寺	同	群馬県群馬郡白郷井村上白井		上越南線渋川
下野国模本	光慶山	観蔵寺	十五組	栃木県下都賀郡水代村模本		栃木・小山附近
下総国神田		正安寺	同	千葉県香取郡神代村神田		佐原町附近
下野繁飾寺		清心寺	同	栃木県河内郡繁飾寺村		小山町附近
同 宇都宮		松岩寺	同	同 宇都宮市		
同 千本		鈴蟲寺	同	同 上都賀郡今市町千本木		日光線今市
同 茂手木		梅川寺	同	同 芳賀郡茂木町		真岡線茂木
同 鹿沼		住泉寺	同	同 上都賀郡鹿沼町		日光線鹿沼
同 上ノ川		永福寺	同	同 河内郡上三川町		東北線石橋駅東
常陸国古郷		安楽寺	同	茨城県真壁郡古里村		水戸線下館附近

同　片野		光安寺	同	同　新沼郡布留町片野	常磐線石岡北方
同　江戸崎		大悲寺	同	同　稲敷郡江戸崎町	龍ケ崎鉄道
● 常州水戸八ケ寺　Hishū Mito hakka-dera (Hitachi)					
常陸小生瀬	栃棚山	永隆寺	水　戸	茨城県久慈郡生瀬村小生瀬	水郡南線袋田東方
同　上手綱		勘　車	同	同　多賀郡松岡村上手綱	常磐線高萩附近
同　下手綱		勘　夕	同	同　下手綱	同
同　折橋		徳　山	同	同　久慈郡賀美村折橋	太田町北方
同　大中		鉄　水	同	同　小里村大中	同
同　小中		玄　達	同	同　小中	同
同　小妻		宥　誓	同	同　小妻	同
同　馬頭		常泰寺	同	栃木県那須郡馬頭町	烏山線烏山東方
● 奥州出羽十一ケ寺　Ōshū Dewa jūikka-dera					
陸奥国花輪	高源山	武音寺	十一組	秋田県鹿角郡花輪町	秋田鉄道陸中花輪
同　福島	小栗山	遠方軒	同	福島市	
同　川俣		青龍軒	梅　地	福島県伊達郡川俣町	川俣線
同　福田		光岩寺	十一組	同　石城郡飯川村福田	常磐線福田
同　相馬		喜泉庵	同	同　相馬郡中村町	同　中村
同　白石		武隈寺	同	宮城県刈田郡白石町	東北本線白石
同　増田		布袋軒	同	同　名取郡増田町	同　増田
同　金成		金成寺	同	同　栗原郡金成村	同　栗原軌道
同　山ノ目	竹隣山	鈴蟲寺	梅　地	岩手県西磐井郡山月村	同　一ノ関ノ次
同　花巻	竹林山	松眼寺	十一組	同　稗貫郡花巻町	同　花巻
出羽国山形		臥龍軒	同	山形市県庁裏	
● 補　　件					
下総国多古		清蔵寺	十五組	千葉県香取郡多古町	成田鉄道多古
陸奥国米岡		三夕庵	十一組	福島県耶麻郡加納村米岡	磐越西線喜多方東方
紀伊国由良	鷲峰山	興国寺	本　山	和歌山県日高郡由良西方寺Kōkokuji	紀勢西線

The Kaidō Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2002.

Bibliography

Anesaki Masaharu. History of Japanese Religion.
1964 Rutland, Vermont, and Tokyo.

Araki Tatsuya. Kinkōryū Shakuhachi Honkyoku.
1971 Unpublished M.A. thesis. Wesleyan University, Middletown (Connecticut).

Austin, Robert, Dana Levy, and Ueda Koiichirō.
1971 Bamboo. New York.

Bailey, Don Clifford. 'Early Japanese Lexicography.'
1960-61 Monumenta Nipponica XVI:1-52.

Bauer, Helen, and Sherwin Carlqvist.
1974 Japanese Festivals. Tokyo.

BDJ - Bukkyō daijiten. Oda Tokunō, editor.
1972 Tokyo. 2 volumes.

Berger, Donald Paul. 'The Shakuhachi and the Kinkō Ryū Notation.' Asian Music I, 2:32-72.
1969

BJ - Bukkyō jiten. Hagihara Unrai, editor.
1959 Tokyo. 1 volume.

Blasdel, Christopher. 'The Shakuhachi: Aesthetics of a Single Tone.' Japan Quarterly XXXI, 2 (April-June):214-217.
1984

Blyth, R.H. Zen and Zen Classics. Volume Four: Mumonkan. Tokyo.
1974

Boxer, C.R. The Christian Century in Japan 1549-1650. Berkeley, Los Angeles.
1974

BSJ - Bukkyō shūha jiten. Kanaoka Shūyū, editor.
1975 Tokyo. 1 volume.

Cha no yu Quarterly 14. Urasenke Foundation of Kyoto.
1976

Cheng Te-k'un. 'Yin-Yang Wu-hsing and Han Art.'
1957 Harvard Journal of Asian Studies 20, 1-2: 162-186.

Cieslik, Hubert S.J. 'The Great Martyrdom in Edo, 1623.' Monumenta Nipponica X:1-44.
1954

Collcutt, Martin. Five Mountains. The Rinzai Zen Monastic Institution in Medieval Japan. Cambridge (Massachusetts) and London.
1981

Cooper, Michael S.J. They Came to Japan. An Anthology of European Reports on Japan. Berkeley, Los Angeles.
1967

Crick, Jonathan Wayne. The Shakuhachi. Unpublished M.A. thesis. San Diego State University.
1981

Crossley-Holland, Peter. 'Non-Western Music.' The Pelican History of Music I: Ancient Forms to Polyphony: Japan:60-69. Harmondsworth.
1975

DBTC - Dictionary of Buddhist Terms and Concepts. Matsuda Tomohiro, chief editor. Tokyo.
1983

DJ - Daijiten. Shimonaka Yasaburō, editor.
1953-54 Tokyo. 13 volumes.

DJJ - Daijimmei jiten. Shimonaka Yasaburō, editor.
1953-55 Tokyo. 10 volumes.

DKWJ - Daikanwa jiten. Morohashi Tetsuji, editor.
1968 Taiwan (Taipei?). 13 volumes.

DNCJ - Dai Nihon chimei jiten. Yoshida Tōgō, editor.
1937-40 Tokyo. 7 volumes.

DNJJ - Dai Nippon jimmei jisho. Dai Nippon jimmei jisho kankōkai. Tokyo. 2 volumes.
1926

Dunn, C.J. Everyday Life in Traditional Japan.
1981 Tokyo.

Earhart, H. Byron. A Religious Study of the Mount Haguro Sect of Shugendō. An Example of Japanese Mountain Religion. Tokyo.
1970

Elliot, Sir Charles. Japanese Buddhism.
1969 London.

Fritsch, Ingrid. Die Solo-Honkyoku der Tozan-Schule.
1979 Kassel, Basel, Tours, and London.

Fung Yu-lan. A Short History of Chinese Philosophy.
1968 New York.

GR - Gunsho ruijū 8 (Index). Zoku Gunsho ruijū kankōkai, editor. Tokyo.
19

GR - Gunsho ruijū 28. Zoku gunsho ruijū kankōkai, editor. First published in 1782 by Hanawa Hokiichi.
1933.

GTKS - Gohon taishō kaihen setsuyōshū. Kamei Takashi and Takaha Gorō, compilers & editors. Tokyo. 2 volumes.
1974

Gutzwiller, Andreas B. Shakuhachi: Aspects of History, Practice and Teaching. Unpublished Ph.D. Thesis. Wesleyan University, Middletown (Connecticut).
1974

Gutzwiller, Andreas B. Die Shakuhachi der Kinko-Schule. Kassel, Basel, and London.
1983

Hall, John W. Japan from Prehistory to Modern Times.
1970 London.

Hall, John W. and Jeffrey P. Mass, editors. Medieval Japan: Essays in Institutional History. New Haven.
1974

Hall, John W. and Toyoda Takeshi, editors. Japan in the Muromachi Age. Berkeley.
1977

Harich-Schneider, Eta. A History of Japanese Music.
1973 London.

Hibbett, Howard. The Floating World in Japanese Fiction. Rutland, Vermont, and Tokyo.
1975

Hirai, Tomio. Psychophysiology of Zen.
1974 Tokyo.

Hirai, Tomio. Zen and the Mind. Scientific Approach to Zen Practice. Tokyo.
1978

Hisamatsu Sen'ichi. Bibliographical Dictionary of Japanese Literature. Tokyo.
1976

Hori Ichiro. 'On the Concept of Hijiri (Holy-man).'
1958 Numen 5, 2 (April):128-160; Numen 5, 3 (September):199-232.

Hoshi Akira. Nihon ongaku no rekishi to kanshō.
1977 Tokyo.

Igarashi Bunzō. 'Hottō Kokūshi no denki to densetsu ni tsuite.' Ichi-on jō-butsu 8 (November): 66-83. Tokyo.
1984

Inoue Yasushi, Takama Shinji, and Ueda Koiichirō.
1977 Nihon no bi: Take. Tokyo.

The Kaidō Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2003.

PDF-page:

Inoura Yoshinobu and Kawatake Toshio. The
1981 Traditional Theatre of Japan. Tokyo.
Ito Setsuko. 'The Muse in Competition. Uta-awase
1982 Through the Ages.' Monumenta Nipponica XXXVII, 2 (Summer):201-210.
Jantsch, Erich. The Self-organizing Universe. Scient-
1980 ific and Human Implications of the Emerging Paradigm of Evolution. Oxford, New York, Toronto, Sidney, Paris, and Frankfurt.
Kameyama Takurō. 'Hakuin no ga ni okeru ju no ha no
1981 igi ni tsuite.' Zen Bunka 101 (July):170-185.
Kasamatsu Akira and Hirai Tomio. 'An Encephalographic
1969 Study on the Zen Meditation (Zazen).' In: Charles T. Tart, ed.: Altered States of Consciousness. A Book of Readings. New York, London, Sidney, and Toronto, pp. 489-501.
Kawai Shigemi. Wakasa Biwako shūsen. Burū gaido
1985 bukusu 138. Tokyo.
KBJ - Konsaisu bukkyō jiten. Ui Hakasu, editor.
1953 Tokyo. 1 volume.
Keene, Donald, translator. Essays in Idleness. The
1967 Tsurezuregusa of Kenkō. New York, London.
Keene, Donald. World Within Walls. Japanese Literature
1976 of the Pre-modern Era, 1600-1867. London.
Kikan hōgaku 5: Shakuhachi no miwaku. Special issue.
1975 Tokyo.
Kikkawa Eishi. 'Hyōtan namazu to shakuhachi. Shaku-
1975 hachi ni miru bigaku.' Kikan hōgaku 5: 52-59. Tokyo.
Kishibe Shigeo. The Traditional Music of Japan.
1969 Tokyo.
Kitagawa, Joseph M. Religion in Japanese History.
1966 New York.
KKCJ - Kadokawa kokugo chūjiten. Tokieda Motoki and
1973 Yoshida Seiichi, editors. Tokyo. 1 volume.
KNJED - Kenkyūsha's New Japanese-English Dictionary.
1974 Masuda Koh, general editor. Tokyo. 1 volume.
Koga Masayuki. Shakuhachi. Japanese Bamboo Flute.
1978 San Fransisco.
Koide Kōhei. Nihon no dentō ongaku.
1970 Tokyo.
Koizumi Fumio. Nihon dentō ongaku no kenkyū.
1958 Tokyo.
Koizumi Fumio, editor. Nihon to sekai no gakufu.
1974 Tokyo.
Koizumi Fumio. Nihon no oto. Sekai no naka no Nihon
1977 ongaku. Tokyo.
Kondō Ichitarō and Charles S. Terry. Hokusai's 36
1968 Views of Mt. Fuji. Tokyo.
Kokusai Bunka Shinkōkai, editor. K.B.S. Bibliography of Standard Reference Books for Japanese Studies with Descriptive Notes. Tokyo.
1971 Vol. I. Generalia. Revised Edition.
1965 Vol. III: History and Biography. Part 1.
1965 Vol. III: History and Biography. Part 2.
1966 Vol. VI (B): Literature. Part One.
1966 Vol. VI-B: Literature. Part II.
1967 Vol. VI-B: Literature. Part III.
1971 Vol. VII-A: Traditional Art and Architecture. Revised Edition.
1966 Vol. VI (B): Theatre, Dance and Music.
Komiya Toyotaka, compiler and editor. Japanese Culture
1956 in the Meiji Era. Volume IX: Music and Drama. Tokyo.
KR - Koji ruien. First impression edited and published by Ruien Kankōkai. Tokyo, 1896-1914. 51 vols. Reduced size reprint edited by Jingū Shichō. Tokyo, 1927-1930.
Reduced size reprint published by Yoshikawa Kōbunkan. Tokyo, 1967-1971.
1967 Vol. 9: Shūkyō-bu. Part 1.
1968 Vol. 35: Gakubu-bu. Part 2.
KS - Kiyū shōran. Kitamura Nobuyo (1784-1856), compiler. First published 1830.
Reprint by Seikōkan Shuppanbu. Tokyo, 1933. 2 volumes.
KSM - Kokusho sōmokuroku. Morisue Yoshiaki, compiler.
1973-76 Tokyo. 9 volumes.
Kurihara Kōta. Shakuhachi shikō.
1975 Tokyo. First published in Tokyo, 1918.
Lewin, Bruno. Abriss der Japanischen Grammatik.
1975 Wiesbaden.
Lu K'uan Yü. The Secrets of Chinese Meditation.
1975 London.
Machida Kashō. 'Japanese Music and Dance.' In: Komiya
1956 Toyotaka, compiler and editor. Japanese Culture in the Meiji Era. Volume IX:329-450.
Maekawa Hisao, editor. Nanki. Ise. Shima. Shin Nihon
1985 gaido 16. Tokyo.
Malm, William P. Japanese Music and Musical Instruments.
1959 Rutland, Vermont, and Tokyo.
Martin, Samuel E. A Reference Grammar of Japanese.
1975 New Haven and London.
Mathews, R.H. Chinese-English Dictionary.
1966 Cambridge (Massachusetts).
Matsunaga Daigan and Alicia Matsunaga. Foundation of
1982 Japanese Buddhism. Tokyo. 2 volumes.
Mikami Sanji. 'Fukeshū ni tsuite.' Shigaku Zasshi 13, 4
1902 (April):61-76. Shigaku Zasshi 13, 5 (May): 64-82.
Miura Isshū and Ruth Fuller Sasaki. Zen Dust. The
1966 History of the Kōan and Kōan Study in Rinzai (Lin-chi) Zen. New York.
Moore, Charles A., editor. The Japanese Mind: Essent-
1976 ials of Japanese Philosophy and Culture. Tokyo.
Mori Hikotarō, editor. Shūhō yokō. Kōkokuji, Yura.
1981 First published 1938.
Moriya Yoshio, editor. Teikoku's Complete Atlas of
1973 Japan. Tokyo.
Murdoch, James. A History of Japan.
1964 New York. 3 volumes.
Muroi Taku and Okamura Hata. Take to sasa. Karā
1977 Bukusu 236. Ōsaka.
Nakamoto Tamaki. Ikkyū Sōjun: Kyōunshū. Kyōunshishū.
1976 Jikaishū. Tokyo.

The Kaidō Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2002.

Nakane Chie. Japanese Society.
1972 Berkeley, Los Angeles.

Nakatsuka Chikuzen. 'Fukeshū no seiritsu.'
1937 Sankyoku 188 (November):20-31.

Nakatsuka Chikuzen. Kinkō-ryū shakuhachi shikan.
1979 The complete collection of Nakatsuka Chikuzen's articles on shakuhachi history which first appeared in Sankyoku 172-208 (July 1936 to July 1939). Edited and revised by Hirano Kenji and Kamisangō Yūkō. Tokyo.

NBDJ - Nihon bungaku daijiten. Fujimura Tsukuru, ed.
1963 Tokyo. 8 volumes.

NBST - Nihon bunka-shi taikei.
1958 Tokyo. 14 volumes.

NCDJ - Nihon chimei daijiten. Watanabe Hikaru, editor.
1967-68 Tokyo. 7 volumes.

Nelson, Andrew Nathaniel. The Modern Reader's Japanese-English Character Dictionary.
1974 Rutland, Vermont, and Tokyo.

The New Oxford History of Music. Volume I.
1957 London.

Nikhilananda, Swami. Preface to the Mandukyopanisad.
1932 In: Swami Nikhilinanda, translator. The Mandukyopanishad with Gaudapada's Karika and Shankara's Commentary. Fifth edition. Mysore, 1968.

Nishiyama Matsunosuke. 'Komusō no ura-omotte.'
1975 Kikan hōgaku 5:26-30.

Nishiyama Matsunosuke. Iemoto monogatari. Tokyo.
1976 First published 1971.

Nishiyama Matsunosuke. Iemoto no kenkyū. Tokyo.
1982 First published in 1956.

NJDJ - Nihon jimmei daijiten. Shimonaka Kunihiko, editor and publisher. Tokyo. 6 volumes.
1979

NKBT - Nihon koten bungaku taikei, vol. 30: Hōjōki.
1966 Tsurezuregusa. Revised and annotated by Nishio Minoru. Tokyo.

NKBT - Nihon koten bungaku taikei, vol. 85: Shasekishū.
1966 Revised and annotated by Watanabe Tsunaya. Tokyo.

NKBZ - Nihon koten bungaku zenshū, vol. 25: Kagura-uta. Saibara. Ryōjinhishō. Kanginshū.
1976 Revised and annotated by Usuda Jingorō and Shimma Shin'ichi. Tokyo.

NKDJ - Nihon kokugo daijiten. Nihon Daijiten Kankō-kai, editor. Tokyo. 20 volumes.
1973-75

NOGJ - The New Official Guide of Japan. Compiled by Japan National Tourist Organization. Tokyo.
1975

NRJJ - Nihon rekishi jimmei jiten. Hioki Shōichi, editor. Tokyo. 1 volume.
1973

NSJT - Nihon shaji taikan.
1970 Tokyo. 2 volumes.

OKJ - Ōbunsha kogo jiten. Osamu Yoshiaki, et al., editors. Tokyo. 1 volume.
1975

OKJ - Ōbunsha kogo jiten. Matsumura Akira, et al., editors. Tokyo. 1 volume.
1981 -

O'neill, P.G. Japanese Names. A Comprehensive Index by Characters and Readings. New York, Tokyo.
1972

Ōno Osamu. 'Hottō Kokushi wa Fuke shakuhachi no so ni arazu ka.' Yura machi no Bunkazai 10 (March):89-100.
1983

Ōno Osamu. Private communication. May 25th, 1986.
1986

Papinot, E. Historical and Geographical Dictionary of Japan. Ann Arbor (Michigan). 1 volume.
1948

The Pelican History of Music I: Ancient Forms to Polyphony. Edited by Alec Robertson and Denis Stevens. Harmondsworth.
1975

Picken, Laurence E.R. 'The Music of Far Eastern Asia.' In: The New Oxford History of Music I:83-194. London.
1957

Piggott, Francis. The Music and Musical Instruments of Japan. London. First published 1893.
1969

Ramming, M. Japan Handbuch. Nachschlagwerk der Japan-Kunde. Berlin. 1 volume.
1941

Ratti, Oscar, and Adele Westbrook. Secrets of the Samurai. Rutland, Vermont, and Tokyo.
1973

Reischauer, Edwin O. East Asia. The Great Tradition.
1960 London.

Roberts, Laurence P. A Dictionary of Japanese Artists.
1976 Tokyo. 1 volume.

Ruch, Barbara. 'Medieval Jongleurs and the Making of a National Literature.' In: John W. Hall and Toyoda Takeshi, editors. Japan in the Muromachi Age, pp. 279-309.
1977

Samuelson, Ralph. Some Aspects of the Kinkōryū Honkyoku. Unpublished M.A. thesis. Wesleyan University. Middletown (Connecticut).
1971

Sanford, James H. 'Shakuhachi Zen. The Fukeshū and Komusō.' Monumenta Nipponica XXXII, 4: 411-440.
1977

Sanford, James H. Zen-man Ikkyū.
1981 Chico (California).

Sansom, George B. A History of Japan.
1964 London. 3 volumes.

Sansom, George B. An Historical Grammar of Japanese.
1968 Oxford.

Sansom, George B. Japan. A Short Cultural History.
1976 London.

Saunders, E. Dale. Buddhism in Japan.
1964 Philadelphia.

Scott Wilson, William. The Unfettered Mind. Writings of the Zen Master to the Sword Master. Tokyo, New York, and San Francisco.
1986

Sekida Katsuki. Zen Training. Methods and Philosophy.
1975 New York, Tokyo.

Shirao Kunitoshi. 'Tempuku.'
1975 Kikan hōgaku 5:20-23.

Shively, Donald H. 'Sumptuary Regulations and Status in Early Tokugawa Japan.' Harvard Journal of Asian Studies 25:123-165.
1962

The Kaidō Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2003.

PDF-page: 137

SKZ - Shin kokugo zuroku. Ono Kyūkō, compiler.
1973 Tokyo. 1 volume.
Stanfield, Norman Allen. The Kinkō-ryū and its "San
1980 Koten Honkyoku". Revised, unpublished M. Mus. Thesis submitted in October 1977. University of British Columbia.
Storry, Richard. The Way of the Samurai.
1978 London.
Suematsu Kencho. Genji Monogatari by Murasaki Shikibu.
1977 Rutland, Vermont, and Tokyo.
Sugi Masao. Hōgaku nyūmon.
1977 Tokyo.
Suzuki, Daisetz T. Zen and Japanese Culture.
1973 New York.
Suzuki, Daisetz T. Essays in Zen Buddhism.
1980 London. 3 volumes.
Swanson, Paul L. 'Shugendō and the Yoshino-Kumano
1981 Pilgrimage: An Example of Mountain Pilgrimage.' Monumenta Nipponica XXXVI, 1 (Spring):55-84.
Takahashi Kūzan. Fukeshū-shi. Sono shakuhachi sōhō
1979 no gakuri. Tokyo.
Tanabe Hisao. Nihon no gakki. Nihon gakki jiten.
1972 Kashiwa (Chiba).
Tart, Charles E., editor. Altered States of Conscious-
1969 ness. New York, London, Sidney, Toronto.
Togi Masataro and William P. Malm. Gagaku.
1968 Tokyo.
Tomimori Kyozan. Meian shakuhachi tsūkai.
1979 Tokyo.
Tonomura Hitomi. 'Forging the Past. Medieval Counter-
1985 feit Documents.' Monumenta Nipponica XXXX, 1 (Spring):69-96.
Trewartha, G.T. Japan: A Geography.
1970 Madison (Wisconsin).
Tsuchihashi, Paul Yachita. Japanese Chronological
1952 Tables from 601 to 1872 A.D. Tokyo.
Tsuge Gen'ichi. 'The History of the Kyotaku.'
1977 Asian Music VIII, 2:47-63.
Tsuge Gen'ichi. 'Bamboo, Silk, Dragon & Phoenix. Sym-
1978 bolism in the Musical Instruments of Asia.' The World of Music 3:10-19.
Tsuji Zennosuke. Nihon bukkyō-shi.
1969-70 Tokyo. 10 volumes.
Tsukitani Tsuneko. 'Shakuhachi no shurui to rekishi.'
1975 Kikan hōgaku 5:13-19,
Turnbull, S.R. The Samurai.
1977 London.
Tyler, Royall, translator. Selected Writings of Suzuki
1977 Shōzan. New York.
Ury, Marian. 'Recluses and Eccentric monks: Tales
1972 from the Hosshinshū by Kamo no Chōmei.' Monumenta Nipponica XXVII:149-174.
WBDJ - Waka bungaku daijiten, Kubota Utsuru and
1962 Itō Yoshio, editors. Tokyo. 2 volumes
Waterhouse, David. 'An Early Illustration of the Four-
1970 stringed Kokyū.' Oriental Art XVI, 2 (Summer):1-7.
Watts, Allan W. The Spirit of Zen.
1955 London.
Watts, Allan W. The Way of Zen.
1957 New York.
Webb, Herschel. Research in Japanese Sources.
1965 New York, London.
Weisgarber, Elliot. 'The Honkyoku of the Kinkō-ryū:
1968 Some Principles of its Organization.' Ethnomusicology XII, 3 (September):313-344.
Wigmore, John Henry, editor. Law and Justice in
1969 Tokugawa Japan. Part I: Introduction.
Wigmore, John Henry, editor. Law and Justice in
1972 Tokugawa Japan. Part VII: Civil Customary Law. Tokyo.
Yamakawa Sōkyū. Private communication. April 19th,
1985
ZDJ - Zengaku daijiten.
1978 Tokyo. 3 volumes.
Zen Bunka 101. Tokushū: Isshi Bunshu.
1981 Kyoto, July 1981.
ZJ - Zengaku Jiten. Jimbo Nyoten and Ando Bun'ei,
1958 editors. Tokyo. 1 volume.
Zenseki mokuroku. Komagawa Daigaku Toshokan biblio-
1962 graphy. Tokyo. 1 volume.

▼ Morrell, Robert E. Sand & Pebbles (Shasekishū). The
1985 Tales of Mujū Ichien. A Voice for Pluralism in Kamakura Buddhism. New York.

Fujita Etsuzan. Private communication.
1988 Tokyo, June 6th.
Ueno Katami. Shakuhachi no rekishi.
1983 Tokyo.

The Kaidō Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2002.

Addenda et corrigenda 1

Page 36: Priest Fuke may in fact also have referred to the Taoist concept of 'emptiness'! According to D.T.Suzuki, 'This corresponds to the Buddhist idea of sunyata, emptiness (k'ung), but hsü as conceived by Lao-tzu, Chuang Tzu, and other Taoists still contains a residue of relativity and fails to reach the depths of the sunyata of Mahayana Buddhist metaphysics." Suzuki 1973:149, note 11.

Page 39: More specifically, this is a poem of Ikkyū's contained in his work the Jikaishū[a], 'Anthology of Self-Admonitions' (1455) entitled Ikkyū eri go-shu-gyō[b], 'The Five-fold Buddhist Practice of Mine'. Enumerated in a short 'preface' to the poem proper, the fourth laconically reads, "Number four is field-music tunes, monkey-music tunes, and shakuhachi [Hitotsu ni wa, dengaku-bushi, sarugaku-bushi narabi ni shakuhachi]." However, as the first, third, and fifth of Ikkyū's 'Buddhist' practices are concerned with women (prostitutes?), drinking parties, and dancing, respectively, I find it rather probable that his love for playing the shakuhachi would have been limited to performing the cheerful ditties of his time. Poem repr. in Nakamoto 1976:367.

Page 42: Illustrated by Makieshi Genzaburō[c] (n.d., DJJ 5:594).

Page 70: These particular passages have been the most difficult to interprete and are still quite open to debate!

Page 73: These five branch sects are those numbered 19-7, 19-10, 19-11, 19-12, and 19-14.

Page 75: The present illustration of a wa-kazari is repr. in NKDJ 20:610.

Page 80: Another, maybe somewhat far-fetched, interpretation of this branch sect appellation is based on the assumption that it might in fact not have been written sa-ra-ha, but sa-u-ha[d], i.e. in this case: Sō-wa[e] as branch sect no. 16 in the Kyotaku denki kokujikai register is indeed named! Source XV, page 120. Normally, however, sō would be written as so + u[f] - not sa + u.

Page 81: Kogiku may in fact refer to a certain kind of Japanese low-quality paper, or chrysanthemum-shaped paper flowers made of that material. OKJ 1981:448.



Fig. 54. 'Wa-kazari'.

一休會裏五種行

一ニハ傾城乱　一ニハ若俗狂　一ニハ酒宴　一ニハ田樂節猿樂節并尺八　一ニハ口宣舞

自戒集

情在江湖簑笠舩　何須臨濟正傳禅　八風五欲一身閙　色欲美人財欲銭

三六七

a) 自戒集 b) 一休會裏五種行 c) 蒔絵師源三郎
d) サウハ e) 宗和 f) ソウ

The Kaidō Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2003.

Page 85: The Kokusho sōmokuroku claims the Boroboro no sōshi to be a Muromachi period tale! KSM 7:369.

As for the Shasekishū I have searched in the NKBT volume 85 version for the passage in question, but in vain. According to Ueno (1983:208) the passage is contained in Book 14.

Page 89: The account of Ippen's meeting with Kakushin is retold in Takuan Sōhō's essay Reiroshū[a], 'The Clear Sound of Jewels', here in William Scott Wilson's translation (Scott 1986:61-62):

> - - - "When Ippen Shōnin met Hottō Kokushi, the founder of the Kōkokuji in the village of Yura in Kii Province, he said, 'I have composed a poem.'
> Kokushi said, 'Let's hear it.'
> Shōnin recited:
>
> When I chant,
> Both Buddha and self
> Cease to exist.
> There is only the voice that says,
> Namu Amida Butsu.
>
> Kokushi said, 'Something is wrong with the last couple of lines, don't you think?'
> Shōnin then confined himself in Kumano and meditated for twenty-one days. When he passed by Yura again, he said, 'This is how I've written it':
>
> When I chant,
> Both Buddha and self
> Cease to exist.
> Namu Amida Butsu.
> Namu Amida Butsu.
>
> Kokushi nodded his enthusiastic approval and said, 'There! You got it!'
> This was written down in Kogaku Oshō's notes. We should look at them again and again." - - -

Kogaku Oshō[b] (1465-1548) is 'a Rinzai monk who taught Zen to the Emperor Go-Nara'. Scott 1986:98, note 13.

In the words of William Scott Wilson, according to whom the Reiroshū is, definitely, 'addressed to the samurai class', the essay 'deals with the fundamental nature of the human being, with how a swordsman, daimyo - or any person, for that matter - can know the difference between what is right and what is mere selfishness, and can understand the basic question of knowing when and how to die.

Page 95: Takuan may have played a central role in the 'process' which led to the adoption of Hottō Kokushi into the Fuke shakuhachi legend, that is if the person who wrote the letter mentioned previously, to the komusō Sandō Mugetsu (pp. 7 and 25) was indeed Takuan's close friend, Isshi Bunshu!

---

a) 玲瓏集 b) 古岳和尚?

The Kaidō Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2002.

Page 97: Contemplating the possibility that the creators of the Kaidō honsoku may have been Christian rōnin in hiding, the idea occurred to me that this very day, Sunday the 26th of March 1628, might have had a special significance as a Christian Holiday. I was, I must admit, somewhat 'disappointed' to realize - basing my calculations on Gauss' Easter Formula - that the day of Easter in 1628 was actually the 24th of April! (Tsuchihashi 1952:125,97).

Pae 105: More precisely, in the documents of the Fuke sect, i.e. after the year 1677, the term komusō can be seen to have replaced those of boro/boroboro and komo/komosō almost completely. However, Japanese Edo period writers who - in their capacity as 'outsiders' - attempted to describe and explain the activities and historical background of the Fuke sect, frequently mix up the appellations applying them as were they virtual synonyms.

Page 108: The poem translated here is recited in the kyōgen play Rakuami (early sixteenth century? p. 40) by the ghost of the deceased flute-player Rakuami who 'materializes' on the grave of his by the sound of a travelling monk's shakuhachi. The ghost introduces the poem as 'the eulogy of the Rōan[a] Temple in Uji'; being composed as a four line Chinese poem (4 x 7 characters), Nishiyama Matsunosuke's rendering in classical Japanese reads as follows (Nishiyama 1976:162; (XVIII)

Ryō-tō o setsudan shite yori,
shakuhachi no uchi, kokin o tzūsu.
Fuki-okosu mujōshin no ikkyoku,
sanzenri-gai ni, chi-in o zessu.

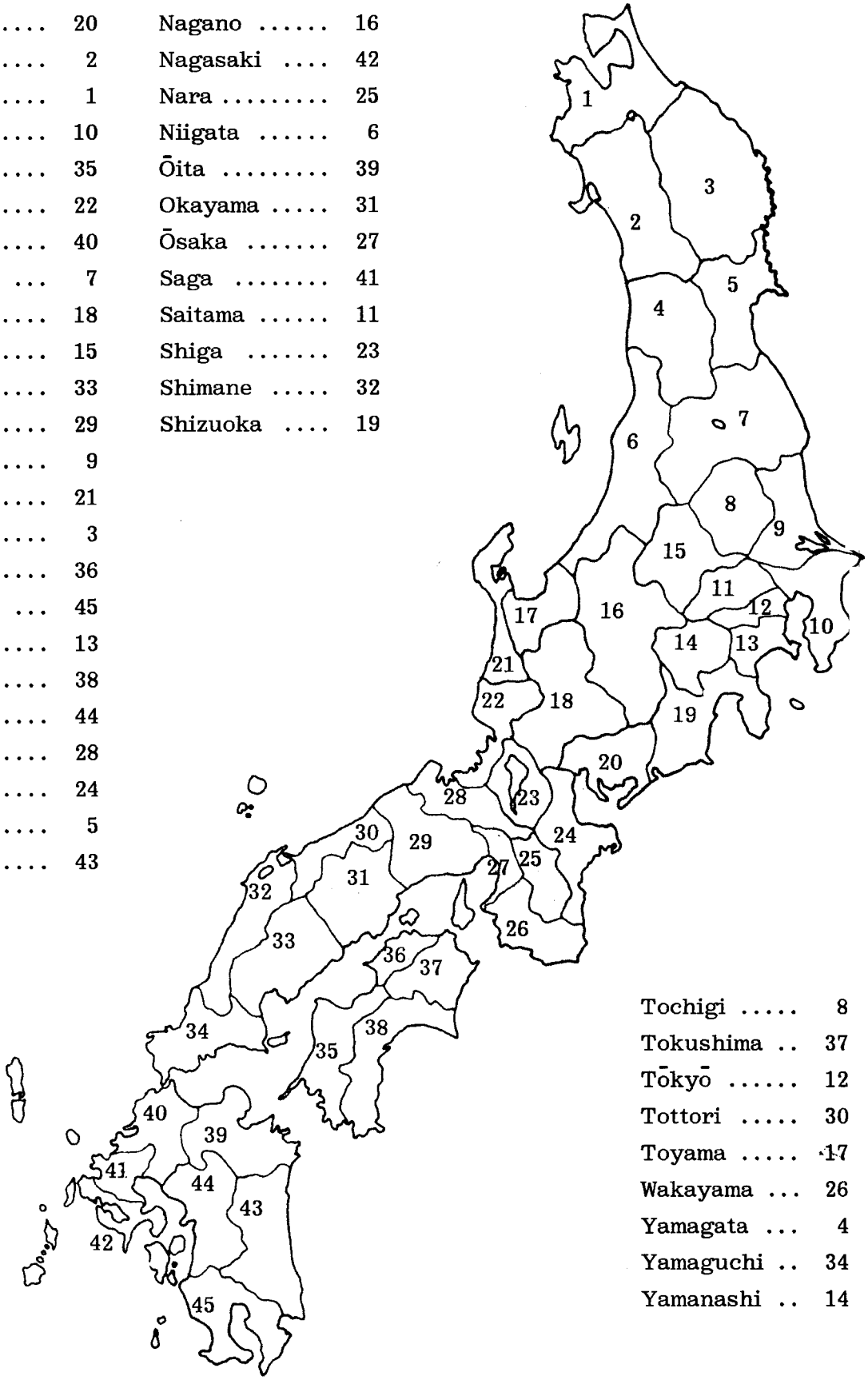
According to the American kyōgen specialist Don Kenny whom I met in Tōkyō in July 1986, the history of 'Rakuami' yet awaits a thorough treatment by the Japanese scholars of kyōgen. Besides, as for the poem in particular, various slightly different versions are preserved. Nakatsuka Chikuzen presented it as the work of the above-mentioned monk Rōan (p. 39, note 85; Nakatsuka 1979:50, 264, 331) whereas Takahashi Kūzan claims the poem to be by Ikkyū Sōjun! (Takahashi 1979:31). Whatever may be the true origin of this clear, yet poetic, statement on the essence of ascetic shakuhachi philosophy, it was eventually included in the 'Kyochiku legend' of the Kyōto Myōanji whose eighteenth abbot Kandō Ichiyū[b] (d. 1738, Gembun 3; Nakatsuka 1979:150) lend his name to an account of Rōan of Uji, being credited as author of the poem in question, changing his name into that of Kyochiku, the alleged founder of the Myōanji! (Kyoreisan engi narabi ni san-kyorei-fu-ben, 'A Lecture on the History of the 'Empty Spirit Mountain' [Myōanji] and the Record of the Three 'Empty Spirit' [i.e. sacred!] Musical Pieces', 1736 (Kyōhō 20). Nakatsuka 1979:133-135; (XIII) a) 朗安(寺) b) 寛堂一宥

The Kaidô Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2003.

PDF-page: [i.e. Kyochiku Ryôen Zenshi. T.O. 2003]

Fig. 55. The prefectures of modern Japan.
From: Cha no yu Quarterly 14:17 (revised).

Aichi	20	Nagano	16
Akita	2	Nagasaki	42
Aomori	1	Nara	25
Chiba	10	Niigata	6
Ehime	35	Ōita	39
Fukui	22	Okayama	31
Fukuoka	40	Ōsaka	27
Fukushima ...	7	Saga	41
Gifu	18	Saitama	11
Gumma	15	Shiga	23
Hiroshima	33	Shimane	32
Hyōgo	29	Shizuoka	19
Ibaraki	9		
Ishikawa	21		
Iwate	3		
Kagawa	36		
Kagoshima ...	45		
Kanagawa	13		
Kōchi	38		
Kumamoto	44		
Kyōto	28		
Mie	24		
Miyagi	5		
Miyazaki	43		



Tochigi	8
Tokushima ..	37
Tōkyō	12
Tottori	30
Toyama	17
Wakayama ...	26
Yamagata ...	4
Yamaguchi ..	34
Yamanashi ..	14

The Kaidō Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2002.

Addenda et corrigenda 2

Page 45: Sankō, 'Tripartite Climatic Periods', can also be read as san sōrō, meaning 'there are three things'.

Page 54: The Jinrin kummo zu-i (1689, p. 42) happens to contain a second illustration of shakuhachi players, namely a beggarmonk and a komusō who both are seen blowing long and heavy 'root-end shakuhachi'! The figure on the right, the komusō, was already reproduced in Nakatsuka 1937 and in Nakatsuka 1979:553, but the drawing had to be discarded as unreliable evidence in the present context until Ueno Katami's book Shakuhachi no rekishi (1983) came into my possession and proved the Nakatsuka copy to be quite close to the original wood-cut print which is presented by Ueno like this (left):



Fig. 56. Genroku period (1688-1704) 'root-end shakuhachi' players. From: Ueno 1983:245.

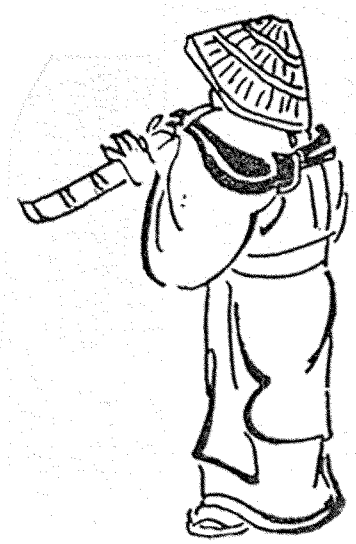


Fig. 57. Genroku per. komusō. From: Nakatsuka 1979:553

The Kaidō Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2003.

Page 15: The present translation should by no means be regarded as final and conclusive.
As it will become apparent in the commentary there are indeed passages in the original for which there may certainly be more than one interpretation of certain sentence constructions or character compounds.
Any suggestions and comments are welcome - please address them to:

Torsten Olafsson
Hollandskevej 5, st. - DK-3000 Elsinore, Denmark
E-mail: to@torstenolafsson.com
Website: www.torstenolafsson.com

Page 69: The rendering of paragraph 15-a changes considerably in case, f.i., komo might refer to the 'mat' of the Komosō, me being 'stitches' instead of 'precepts', and men meaning 'surface', not 'aspects'. In particular, me/moku can take numerous meanings depending on the context.

The Kaidō Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2002.

PDF-page:

Postscript

The Kaidô Honsoku dated 1628. M.A. thesis by Torsten Olafsson, Denmark. Copyright © 1987/88 & 2003.

"The deep questions we write out
Are but marks in a dream
When we awake,
even the questioner is gone.

Fourth month, 8th day of 1457
Written at Daitokuji in Japan
by Sōjun called Ikkyū,
7th in the line of Hsü-t'ang."

Trsl. in Sanford 1981:211